

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成23年6月2日(2011.6.2)

【公表番号】特表2006-519823(P2006-519823A)

【公表日】平成18年8月31日(2006.8.31)

【年通号数】公開・登録公報2006-034

【出願番号】特願2006-505920(P2006-505920)

【国際特許分類】

A 6 1 K 31/7076 (2006.01)
 C 0 7 H 19/167 (2006.01)
 A 6 1 P 25/04 (2006.01)
 A 6 1 P 25/02 (2006.01)
 A 6 1 P 35/00 (2006.01)
 A 6 1 P 1/18 (2006.01)
 A 6 1 P 31/18 (2006.01)
 A 6 1 P 19/00 (2006.01)
 A 6 1 P 17/02 (2006.01)
 A 6 1 P 9/00 (2006.01)
 A 6 1 P 15/00 (2006.01)
 A 6 1 P 31/22 (2006.01)
 A 6 1 P 25/00 (2006.01)
 A 6 1 P 21/00 (2006.01)
 A 6 1 P 3/10 (2006.01)
 A 6 1 P 29/00 (2006.01)
 A 6 1 P 19/02 (2006.01)
 A 6 1 P 19/06 (2006.01)
 A 6 1 P 11/00 (2006.01)
 A 6 1 P 9/10 (2006.01)
 A 6 1 P 37/02 (2006.01)
 A 6 1 P 21/04 (2006.01)
 A 6 1 P 1/00 (2006.01)
 A 6 1 P 19/10 (2006.01)
 A 6 1 P 43/00 (2006.01)
 C 0 7 H 19/16 (2006.01)

【F I】

A 6 1 K 31/7076
 C 0 7 H 19/167
 A 6 1 P 25/04
 A 6 1 P 25/02 1 0 1
 A 6 1 P 35/00
 A 6 1 P 1/18
 A 6 1 P 31/18
 A 6 1 P 19/00
 A 6 1 P 17/02
 A 6 1 P 9/00
 A 6 1 P 15/00
 A 6 1 P 31/22
 A 6 1 P 25/00
 A 6 1 P 21/00

A 6 1 P 3/10
 A 6 1 P 29/00 1 0 1
 A 6 1 P 19/02
 A 6 1 P 29/00
 A 6 1 P 19/06
 A 6 1 P 11/00
 A 6 1 P 9/10
 A 6 1 P 37/02
 A 6 1 P 21/04
 A 6 1 P 1/00
 A 6 1 P 19/10
 A 6 1 P 43/00 1 1 1
 C 0 7 H 19/16

【誤訳訂正書】

【提出日】平成23年4月12日(2011.4.12)

【誤訳訂正1】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】全文

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

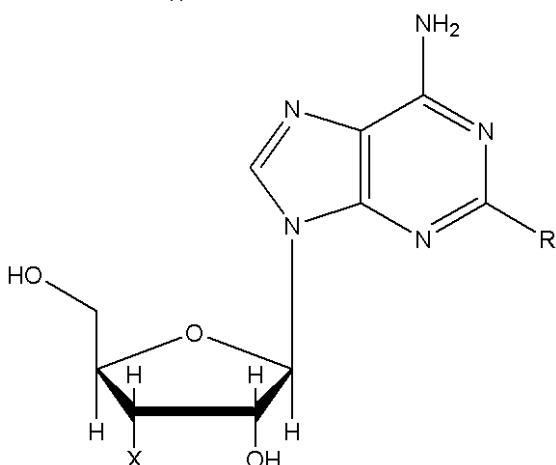
【特許請求の範囲】

【請求項1】

疼痛予防、治療、または改善のための薬剤製造における式(I)：

【化1】

(I)



[式中、RはC₁ - C₄アルコキシ、およびXはHまたはOHであり、2-メトキシアデノシンは除く]

の化合物の使用。

【請求項2】

疼痛が痛覚過敏である、請求項1に記載の使用。

【請求項3】

痛覚過敏が神経因性疼痛である、請求項2に記載の使用。

【請求項4】

疼痛が知覚神経への直接的な損傷か、知覚神経により神経支配されている組織の損傷に起因する、請求項1 - 3のいずれかに記載の使用。

【請求項5】

癌疼痛、臍臓疼痛、骨盤／会陰の疼痛、HIV疼痛、慢性神経因性疼痛、腰痛（Lower Back Pain）、脊椎手術の失敗による疼痛、背痛、術後疼痛、身体的外傷後の疼痛（銃弾、交通事故、火傷を含む）、心臓痛、胸痛、骨盤疼痛／PID、関節疼痛（腱炎、滑液包炎、急性関節炎）、首痛、腸痛、幻肢痛、産科の疼痛（分娩／帝王切開）、急性ヘルペス帯状疱疹の疼痛、急性臍炎の強烈な疼痛（癌）の予防、治療、または改善のための、あるいは糖尿病性神経障害、多発神経障害、線維筋痛症、筋・筋膜疼痛症候群、骨関節炎、ヘルペス後神経痛、関節リウマチ、坐骨神経痛／腰部の神経根障害、脊髄狭窄症、側頭下頸の関節障害、三叉神経痛、腎症痛、月経困難症／子宮内膜症に起因する、または関連する、神経因性疼痛の予防、治療、または改善のための請求項1-4のいずれかに記載の使用。

【請求項6】

痛覚過敏が炎症性疼痛である、請求項2に記載の使用。

【請求項7】

疼痛が炎症性および／または自己免疫性の組織損傷に起因する、請求項1、2、または6いずれかに記載の使用。

【請求項8】

腸痛、癌疼痛、背痛、術後疼痛の予防、治療、または改善のための、あるいは関節リウマチ、骨関節炎、リュウマチ様脊椎炎、痛風性関節炎、および他の関節炎状態、癌、HIV、慢性肺性炎症性疾患、ケイ肺症、肺性肉腫、骨吸收の疾患、再灌流損傷（虚血性症状後の再灌流に起因する器官損傷を含む）、自己免疫性損傷（多発性硬化症、ギランバレー症候群、重症筋無力症を含む）、移植片対宿主の拒絶反応、同種移植の拒絶反応、感染症起因の発熱および筋肉痛、線維筋痛症、AIDS関連合併症（ARC）、ケロイド形成、瘢痕組織形成、クローン病、潰瘍性大腸炎およびパイレシス、過敏性腸症候群、骨粗鬆症、脳性マラリアおよび細菌性髄膜炎に起因する、または関連する、炎症性もしくは他の疼痛の予防、治療、または改善のための、請求項1、2、6、または7に記載の使用。

【請求項9】

6mg/kg未満で投与される、請求項1-8のいずれかに記載の使用。

【請求項10】

少なくとも0.01mg/kgで投与される、請求項1-9のいずれかに記載の使用。

【請求項11】

0.2ないし1mg/kgで投与される、請求項1-10のいずれかに記載の使用。

【請求項12】

対象における疼痛の予防、治療、または改善のための医薬組成物であって、式（I）の化合物を含む医薬組成物。

【請求項13】

疼痛が痛覚過敏である、請求項12に記載の医薬組成物。

【請求項14】

痛覚過敏が神経因性疼痛である、請求項13に記載の医薬組成物。

【請求項15】

疼痛が知覚神経への直接的な損傷か、知覚神経により神経支配されている組織の損傷に起因する、または関連する、請求項12-14のいずれかに記載の医薬組成物。

【請求項16】

癌疼痛、臍臓疼痛、骨盤／会陰の疼痛、HIV疼痛、慢性神経因性疼痛、腰痛（Lower Back Pain）、脊椎手術の失敗による疼痛、背痛、術後疼痛、身体的外傷後の疼痛（銃弾、交通事故、火傷を含む）、心臓痛、胸痛、骨盤疼痛／PID、関節疼痛（腱炎、滑液包炎、急性関節炎）、首痛、腸痛、幻肢痛、産科の疼痛（分娩／帝王切開）、急性ヘルペス帯状疱疹の疼痛、急性臍炎の強烈な疼痛（癌）の予防、治療、または改善のための、あるいは糖尿病性神経障害、多発神経障害、線維筋痛症、筋・筋膜疼痛症候群、骨関節炎、ヘルペス後神経痛、関節リウマチ、坐骨神経痛／腰部の神経根障害、脊髄狭窄症、側頭下頸の関節障害、三叉神経痛、腎症痛、月経困難症／子宮内膜症に起因する、または関連する

、神経因性疼痛の予防、治療、または改善のための、請求項12-15のいずれかに記載の医薬組成物。

【請求項17】

痛覚過敏が炎症性疼痛である、請求項13に記載の医薬組成物。

【請求項18】

疼痛が炎症性および/または自己免疫性の組織損傷に起因する、請求項12、13、または17に記載の医薬組成物。

【請求項19】

腸痛、癌疼痛、背痛、術後疼痛の予防、治療、または改善のための、あるいは関節リウマチ、骨関節炎、リュウマチ様脊椎炎、痛風性関節炎、および他の関節炎状態、癌、HIV、慢性肺性炎症性疾患、ケイ肺症、肺性肉腫、骨吸收の疾患、再灌流損傷（虚血性症状後の再灌流に起因する器官損傷を含む）、自己免疫性損傷（多発性硬化症、ギランバレー症候群、重症筋無力症を含む）、移植片対宿主の拒絶反応、同種移植の拒絶反応、感染症起因の発熱および筋肉痛、線維筋痛症、AIDS関連合併症（ARC）、ケロイド形成、瘢痕組織形成、クローン病、潰瘍性大腸炎およびパイレシス、過敏性腸症候群、骨粗鬆症、脳性マラリアおよび細菌性髄膜炎に起因する、または関連する、炎症性もしくは他の疼痛の予防、治療、または改善のための、請求項12、13、17、または18に記載の医薬組成物。

【請求項20】

化合物が6mg/kg未満で投与される、請求項12-19のいずれかに記載の医薬組成物。

【請求項21】

化合物が少なくとも0.01mg/kgで投与される、請求項12-20のいずれかに記載の医薬組成物。

【請求項22】

化合物が0.2ないし1mg/kgで投与される、請求項12-21のいずれかに記載の医薬組成物。

【請求項23】

化合物が経口、非経口、舌下、経皮、くも膜下腔内、経粘膜、静脈内、筋肉内、皮下、局所、または吸入投与される、請求項12-22のいずれかに記載の医薬組成物。

【請求項24】

化合物が1日につき2または3回投与される、請求項12-23のいずれかに記載の医薬組成物。

【請求項25】

対象がヒトである、請求項12-24のいずれかに記載の医薬組成物。

【誤訳訂正2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0018

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0018】

本発明により疼痛（特に痛覚過敏）の予防、治療、または改善のための鎮痛剤（特に抗痛覚過敏剤）として式（I）の化合物の使用が提供され、該疼痛は、糖尿病性神経障害、多発神経障害を含む神経障害、癌疼痛、線維筋痛症、筋・筋膜疼痛症候群、骨関節炎、臍臓の疼痛、骨盤/会陰の疼痛、ヘルペス後神経痛、関節リウマチ、坐骨神経痛/腰部の神経根障害、脊髄狭窄症、側頭下頸の関節障害、HIV疼痛、三叉神経痛、慢性神経因性疼痛、腰痛（Lower Back Pain）、脊椎手術の失敗による疼痛（Failed Back Surgery pain）、背痛、術後疼痛、身体的外傷後の疼痛（銃弾、交通事故、火傷を含む）、心臓痛、胸痛、骨盤疼痛/PID、関節疼痛（腱炎、滑液包炎、急性関節炎）、首痛、腸痛、幻肢痛、産科の疼痛（分娩/帝王切開）、腎症痛、急性ヘルペス帯状

疱疹の疼痛、急性膵炎の強烈な疼痛（癌）、月経困難症／子宮内膜症に起因する。

【誤訳訂正3】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0054

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0054】

式（I）の化合物は、神経障害および／または炎症性疾患起因の疼痛（特に痛覚過敏）の治療ために経口投与が可能な鎮痛剤（特に痛覚過敏剤）として用いられることができ、該疼痛は糖尿病性神経障害、多発神経障害、癌疼痛、線維筋痛症、筋・筋膜疼痛症候群、膵臓疼痛、骨盤／会陰の疼痛、背痛、ヘルペス後神経痛、関節リウマチ、坐骨神経痛／腰部の神経根障害、脊髄狭窄症、側頭下頸の関節障害、HIV疼痛、三叉神経痛、慢性神経因性疼痛、腰痛（Lower Back Pain）、脊椎手術の失敗による疼痛、術後疼痛、身体的外傷後の疼痛（銃弾、交通事故、火傷を含む）、心臓痛、胸痛、骨盤疼痛／PID、関節疼痛（腱炎、滑液包炎、急性関節炎）、首痛、腸痛、幻肢痛、産科の疼痛（分娩／帝王切開）、腎症痛、急性ヘルペス帯状疱疹の疼痛、急性膵炎の強烈な疼痛、癌疼痛、月経困難症／子宮内膜症、関節リウマチ、骨関節炎、リュウマチ様脊椎炎、痛風性関節炎、および他の関節炎状態、癌、HIV、慢性肺性炎症性疾患、ケイ肺症、肺性肉腫、骨吸收の疾患、再灌流損傷（心筋梗塞、脳卒中のような虚血性症状後の再灌流に起因する器官損傷を含む）、自己免疫性損傷（多発性硬化症、ギランバレー症候群、重症筋無力症を含む）、移植片対宿主の拒絶反応、同種移植の拒絶反応、感染症起因の発熱および筋肉痛、AIDS関連合併症（ARC）、ケロイド形成、瘢痕組織形成、クローン病、潰瘍性大腸炎およびパイレシス、過敏性腸症候群、骨粗鬆症、脳性マラリアおよび細菌性髄膜炎を含む。